

中央アフリカ共和国で合気道

在カメルーン日本国大使館

(中央アフリカ兼轄)

以下は UNDP 中央アフリカ共和国事務所で勤務されている進絢さんから伺ったお話です。

「いち、に、さん、し、ご、ろく、しち、はち」、「先生」、「押忍」、「体捌き（たいさばき）」、「自然体」といった日本語が次々と飛び出す道場で、15名ほどの中央アフリカ人の先生と生徒が、真剣な面持ちで合気道の稽古を行う光景が、中央アフリカ共和国の首都バンギで、毎週木曜日と日曜日に繰り広げられています。

2001年頃に、バンギに勉学のためにやってきた合気道愛好家のコンゴ人が、趣味の一環としてバンギで合気道を教え始めたことがきっかけで、2009年に「中央アフリカ合気道連盟 (La Fédération Centrafricaine d' Aïkido)」が設立されました。合気道愛好家によって、2022年の現在も稽古が継続されています。道場は、柔道やテコンドーなど、ほかの武術を行うグループと共有しています。日本に住む中央アフリカ合気道連盟会長のガブリエルさんが、ときおり中央アフリカを訪れる際に指導をされているそうです。通常は、メンバーはインターネットや書籍で合気道について学び、稽古をして技術の向上をはかっています。道場にはマットが敷かれていますが、マットの代わりに畳を導入し、もっと高度な技術を持つ先生について習いたいという希望を持っています。

道場に入る前は一礼してから入室する、脱いだ履物は出船に揃える、稽古の始めと終わりには正座をして礼をする、礼に始まり礼に終わる武道の

精神の実践の清々しさを、日本から遠く離れた中央アフリカで感じることができます。中央アフリカ合気道連盟の副会長を務めるバティラさん（写真1左端）は、連盟設立当初から稽古に参加しており、現在は指導も担当しています。和合、非暴力、競争がない（試合がなく演武のみ）という合気道の精神性に魅せられていること、合気道発祥の地である日本をいつか訪れてみたいこと、中央アフリカの合気道のレベルを上げていくことが目標と話してくれました。



中央アフリカは人口約 500 万人、国土面積は日本の約 1.7 倍、ゾウやゴリラなどの生息する国立公園のある緑豊かな国です。武装勢力の存在により、2022 年現在も、国連平和維持活動を行う国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション（MINUSCA）が活動しており、国民の約 3 人に 2 人（310



万人）は人道支援が必要であるとの分析もあります。多くの人が平和を希求する中央アフリカで、和合、非暴力の理念を持つ合気道に魅了され、合気道の普及に貢献してきた中央アフリカ人の存在をぜひ知っていただければと思います。